

令和5年度 日本大学自主創造プロジェクト

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

2023001

プロジェクト名 医歯学進路啓発のための高大連携プロジェクト

プロジェクトの概要

日本大学は、医学部と歯学部を有し、かつ、多数の付属高校を有するという特色がある。これを活かし、①日本大学附属中高生の医、歯学部への進路選択をサポートすること、②早期にリサーチマインドを涵養し、基礎医学者の不足という社会的課題を解決する端緒となること、の2点を本プロジェクトの目的とした。7月から12月にかけて、のべ約130名の生徒を医学部キャンパスに招待して講演や体験プログラムを実施し、高評価をいただいた。

プロジェクトの結果・成果

中高生にとって、大学の学部選びはキャリアを決める重要な分岐点となる一方で、学生生活や卒業後の進路について、近い年齢の先輩から聞く機会は少ない。また、日本全国で、基礎医学者の不足が問題となっており、その原因の一つとして、進路決定時に医学研究を身近に感じられていないことが考えられる。こうした問題意識から、上述の2点の目標を設定し、プロジェクトを実施した。

4校の日本大学附属校、のべ約130名の生徒に対し、現役学生・研究者による学生生活や研究活動に関する講演、外科医体験や分子生物学的手法を用いた実験教室、医学部附属板橋病院の見学などを実施し、その効果をアンケートで調査した。調査結果の概略としては、講演内容を肯定的に評価した生徒が92.4%、日大医学部進学に興味を持った生徒が78.0%、基礎医学研究を一定の理解をしたと自己評価する生徒が86.8%と、プロジェクトの有効性が示唆される結果となった。参加生徒だけでなく、引率いただいた先生方からも、「コロナ禍以前の医学部訪問時よりも企画が充実しており、大変有意義だった」などの評価をいただいた。これらの活動では、医学部附属板橋病院庶務課・看護部、医学部教務課にご協力いただき、また、日本大学新聞の記事及びSNSで活動を掲載いただいた。本プロジェクトをきっかけに、副次的な効果として、学内連携や広報活動が進捗したと評価している。

本プロジェクトの実施内容及び効果の報告は、3月下旬に実施される第129回日本解剖学会総会・全国学術集会にて、「中学生高校生を対象としたearly exposureプログラムの実践」としてポスター発表に採択された。同学会で発表し、日本全国の研究者、学生と議論を深め、来年度以降のプロジェクトの改善に活用したいと考えている。

活動写真

